

第38回国際外科学会 世界大会2012に参加して

先日11月8日から10日にかけて、第38回国際外科学会世界大会2012がオーストラリア・ブリスベンにて開催されました。日本からは2016年の世界大会における candidate となる可能性があり、日本部会前会長の高崎健先生をはじめ、山岸先生、前田教授、平澤教授、小西教授、関根教授、山口教授、山本教授、大坪教授、亀岡教授など錚々たる先生方が参加され、それらに初の国際学会の舞台に躍り出ようとする新進気鋭の若手外科医達がミックスされ、日本の外科医の情熱がオーストラリアの地で結集し、多数の教育的な発表がなされました。また明治国際医療大学の平澤泰介教授は Honorary Fellow のメダルを Opening Ceremony にて授与されました。

ブリスベンというと、日本にはあまり馴染みのない地名かもしれませんが、ゴールドコーストやグレートバリアリーフなどの、世界有数の観光地があるクイーンズランド州の首都であり、初夏を迎える素晴らしいシーズンに開催されました。私事ではありますが、20年前に5年間学生生活を送った土地であり、その間の変化はめまぐるしく、当時万博会場として使用された Southbank が Convention Center に生まれ変わり、多数の外科医を迎える場となっていました。

会場ではやはり中国、インドの存在感は強く、特に会員数では中国は ICS の中でもトップクラスということでした。また、オーストラリアの若手外科医の参加も多数あり、規模としては小さいながらも全体を通じてエネルギッシュな学会ではなかったかと思いました。

東京女子医科大学 第2外科 天野 久仁彦